

国立健康・栄養研 臨床栄養 辻 悦子

目的 高脂血症の予知、予防を目的として、健常者に各種脂肪を負荷し、血中脂質の変動や個人差を検討してきた。既に本大会でバターおよびマーガリンにつき報告した。今回は同じマーガリン（リノール酸含量約33%）を大量用いた時の血中脂質の変動を検討した。

方法 18-22歳の健常女子学生10名を被験者とし、1日当たりマーガリンを90g常食に加えて7日間摂食負荷した。負荷前後早朝空腹時に採血して、血清脂質の変動を調べた。負荷試験の初日には、上記脂肪を1回負荷後、血清脂質の変動を2時間毎に調べた。また実験前および実験期間中の食物調査、生活時間調査も行った。

結果 実験前の1日当たりの栄養素平均摂取量は、エネルギー 1952kcal、たん白質 72.2g、脂肪 60.5g、脂肪エネルギー比 27%、Ca 638mg、Fe 9.4mg、V.A 2436IU、V.B₁ 1.37mg、V.B₂ 1.69mg、V.C 75mgであった。実験期間中はエネルギー、脂肪、V.Aの摂取量は著しく増加し、脂肪エネルギー比は46%と増加した。体重は1週間後には増加した。しかし、7日間のマーガリン負荷により血中総コレステロール（CHL）、遊離CHL、トリグリセライドは、明らかに低下した。被験者中1名は高CHL血であったが、負荷後の各脂質レベルは負荷前に比べすべて低下していた。1回負荷後の経時変化では、負荷後のトリグリセライドと遊離CHLの著しい増加、およびカイロマイクロン、pre-βリポ蛋白の増加がみられた。前報における男子へのマーガリン60g負荷ではLDL-CHLの低下傾向がみられたが、本実験では負荷1週間後のLDL-CHLは著しく低下し、これが総CHLの低下に明らかに反映していた。また、アポBも著しく低下することが認められた。